

函館支部研究主題

主体的に自然とかかわり、共に知をつくる問題解決（変更の可能性あり）

視点1

子供の思考に沿った学習展開の工夫

6つの問題解決の過程を基本形とした

単元構成

学びを広げ、深めるための学習展開

視点2

問題解決を支える「すべ」の定着

思考・判断・表現のすべ

今年度の研究の重点

- 子供の発達段階における「吟味」の在り方とその具体的な姿の共有
- 「すべ」と「吟味」の関連性をおさえる

函館大会では、次の2点を重点として研究に取り組んだ。

- 学びを広げ、深めるための学習展開「吟味」を中心として
- 「思考のすべ」「判断のすべ」「表現のすべ」

その成果として、

- 学習展開に「吟味」を取り入れることで、子供自身が自らの問題解決の方法をふり返し、仮説と照らし合わせながら、実験をそのまま続けてよいのか、修正したほうがよいのかを主体的に判断する力が高まった。
- 単元計画の中で、「思考のすべ」「判断のすべ」「表現のすべ」を育成できる場面を意図的に設定し、子供が繰り返し「すべ」を使いこなせるようにした。主体的に学ぶ上でのツールとして活用できるようになりつつある。

これからの課題として、

「吟味」「すべ」をより関連させて指導にあたることや、より子供主体の問題解決をはぐくむ必要があることを確認し、今年度の研究の重点にあてる。（自己調整力やメタ認知）

とくに研究主題や視点について、今年度若干の改定を予定している。

視点1 子供の思考に沿った学習展開の工夫

1 6つの問題解決の過程を基本形とした単元構成

- ・単元の特性を考慮しつつ、子供の思考に沿った問題解決的な学習展開を構成する。

2 学びを広げ、深めるための学習展開

- ・子供が主体的に学習を進めることができるよう、既習の学習経験などを生かした仮説や実験を考案することを重視する。
- ・子供が協同的に学習を進め、学びを深めることができるよう、問題解決の過程の中で、実験結果の精査や、再実験の検証など、自らの活動を「吟味」する機会を設け、仲間の意見を求める、主体的な交流場面が生まれるようにする。
- ・授業場面における子供が「吟味」する姿を具体で表し、仲間と共に問題を解決する楽しさを味わうとともに、科学的な思考力を高めることができるような授業づくりを行う。

視点2 問題解決を支える「すべ」の定着

1 思考・判断・表現のすべ

- ・資質・能力の3つの柱の1つである「思考力・判断力・表現力等」を育成するため、問題解決の過程の中でどのような「すべ」を習得しておく必要があるのかを整理する。あわせて、子供に「すべ」が身に付くような学習活動を意図的に設定し、自由に使いこなすことができるようにする。指導案上などに「すべ」を使いこなしている子供の姿を授業場面での様子で表すこととする。
- ・「判断のすべ」と「吟味」の関連性を整理し、教師の支援の具体的方策を示す。